

# 設楽ダム環境検討委員会資料

動物の重要な種の生息状況の監視  
(アカショウビンの工事実施前の生息状況の把握)

平成22年3月5日

国土交通省 中部地方整備局  
設楽ダム工事事務所

1. 調査目的.....	1
2. 調査実施状況.....	1
2.1 調査地域.....	1
2.2 調査実施日.....	3
2.3 調査方法.....	3
3. 調査結果.....	4
3.1 確認状況.....	4
3.2 営巣地の確認状況.....	6
4. まとめ.....	7
4.1 調査の概要.....	7
4.2 今後のモニタリング調査について.....	7

## 1. 調査目的

動物の重要な種のうち、アカショウビン<sup>\*1</sup>は既往調査において事業実施区域の近傍で多く確認されていること等から、工事の実施前、実施期間中及び供用開始後には、専門家の指導、助言を得ながら、生息状況等の監視を行うこととされている。

このことから、本調査は、工事の実施前の期間におけるアカショウビンの生息状況等を把握することを目的として実施した。

## 2. 調査実施状況

### 2.1 調査地域

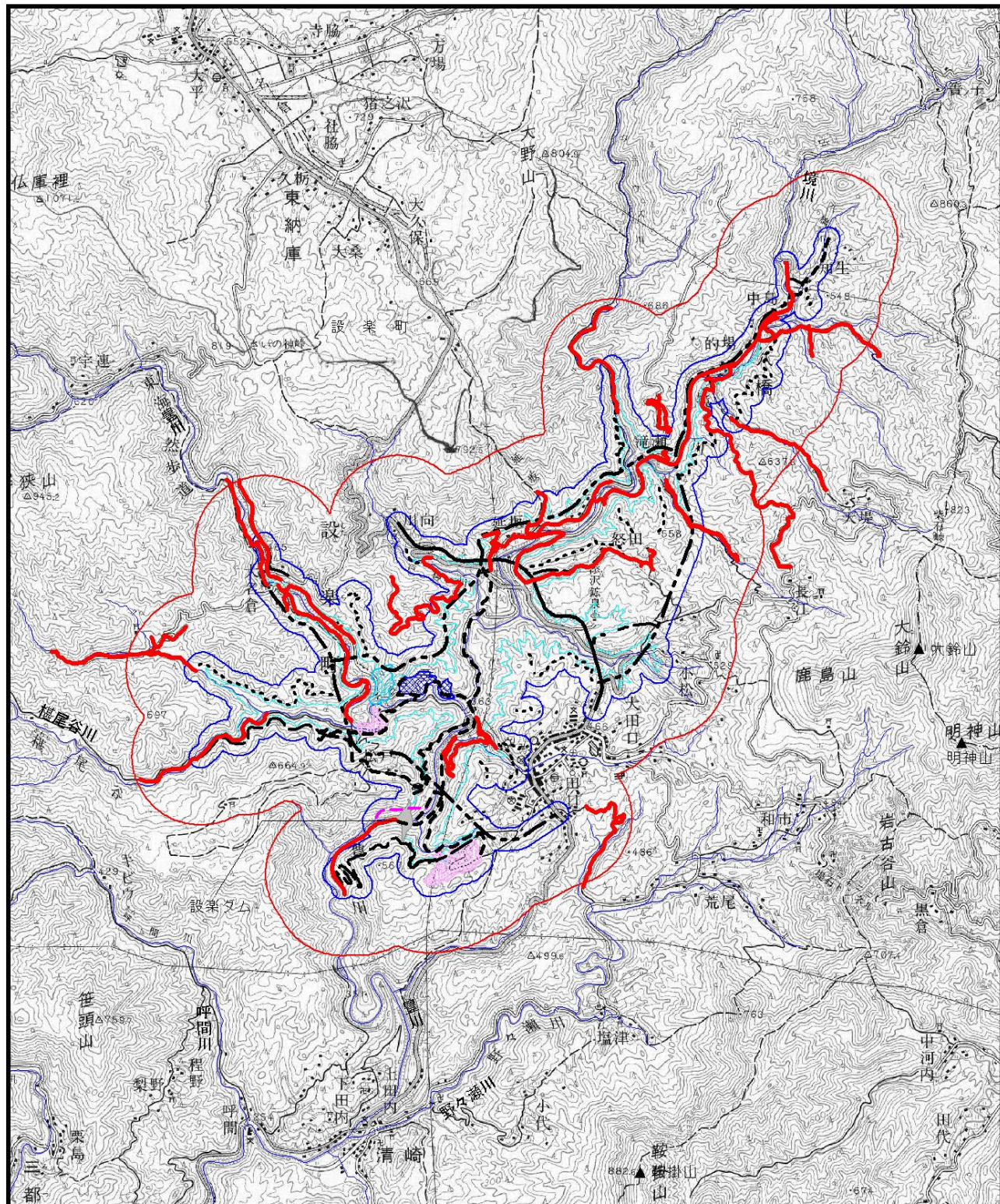
調査地域は、設楽ダム事業実施区域及びその周辺の区域とした。

調査は、ラインセンサス法、またアカショウビンの出現状況や環境条件に応じて任意踏査のルートを設定した。

調査地域及びルートを図 2.1 に示す。

---

<sup>\*1</sup> アカショウビンに関しては、設楽ダム環境影響評価準備書についての愛知県知事の意見として、「適切に監視すること」とされている。



- 凡 例
- : ダム堤体
  - : 貯水予定区域
  - : 対象事業実施区域
  - : 調査地域
  - : 市町村界
  - : 河川
  - : 原石山予定地
  - : 建設発生土処理場予定地
  - : 施工設備予定地
  - : 付替国道予定ルート
  - : 付替県道予定ルート
  - : 付替町道予定ルート
  - : 付替林道予定ルート
  - : 工事用道路
  - : 仮排水トンネル
  - : 調査ルート

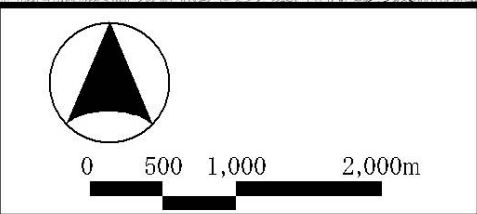
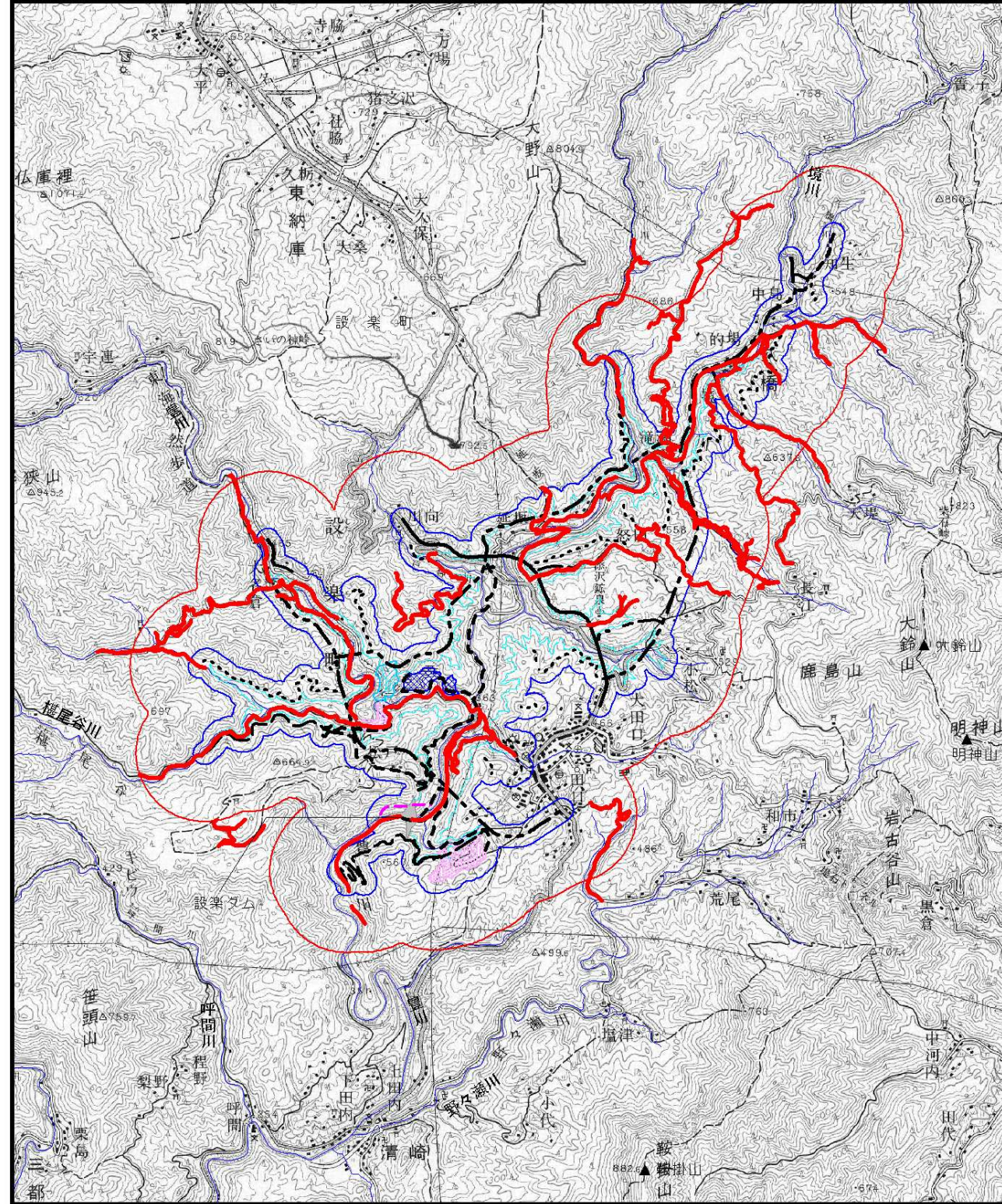


図 2.1(1)  
調査ルート  
(調査期間：平成 19 年 6 月)



- 凡 例
- : ダム堤体
  - : 貯水予定区域
  - : 対象事業実施区域
  - : 調査地域
  - : 市町村界
  - : 河川
  - : 原石山予定地
  - : 建設発生土処理場予定地
  - : 施工設備予定地
  - : 付替国道予定ルート
  - : 付替県道予定ルート
  - : 付替町道予定ルート
  - : 付替林道予定ルート
  - : 工事用道路
  - : 仮排水トンネル
  - : 調査ルート

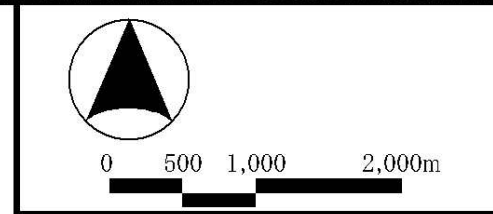


図 2.1(2)  
調査ルート  
(調査期間：平成 20 年 6 月、7 月)

## 2.2 調査実施日

現地調査は、平成 19 年度及び 20 年度に実施した。

アカショウビンの繁殖期は 5 月から 7 月とされ、調査地域では、既往調査により 5 月中旬から 6 月下旬に確認されていることから、現地調査は、初夏に実施した。現地調査の実施日程を表 2.1 に示す。

平成 19 年度は、1 回目の調査を平成 19 年 6 月 5 日～7 日、2 回目の調査を平成 19 年 6 月 27 日～29 日に実施した。なお、平成 19 年 6 月 14 日～15 日に実施したその他の調査の際にもアカショウビンを確認した場合は記録に努めた。

平成 20 年度は、1 回目の調査を平成 20 年 6 月 4 日～6 日、2 回目の調査を 7 月 2 日～4 日に実施した。なお、平成 20 年 6 月 23 日～25 日に実施したその他の調査の際にも、アカショウビンを確認した場合は記録に努めた。


表 2.1 現地調査実施日程

調査年	月日(曜日)	天候	調査内容
平成 19 年	6 月 5 日(火)	晴	アカショウビン調査(1 回目)
	6 月 6 日(水)	晴	アカショウビン調査(1 回目)
	6 月 7 日(木)	曇り後晴	アカショウビン調査(1 回目)
	6 月 14 日(木)	曇り時々雨	その他の調査
	6 月 15 日(金)	晴	その他の調査
	6 月 27 日(水)	晴	アカショウビン調査(2 回目)
	6 月 28 日(木)	晴	アカショウビン調査(2 回目)
平成 20 年	6 月 29 日(金)	曇り	アカショウビン調査(2 回目)
	6 月 4 日(水)	くもり	アカショウビン調査(1 回目)
	6 月 5 日(木)	くもり	アカショウビン調査(1 回目)
	6 月 6 日(金)	晴れ	アカショウビン調査(1 回目)
	6 月 23 日(月)	雨後くもり	その他の調査
	6 月 24 日(火)	くもり	その他の調査
	6 月 25 日(水)	くもり	その他の調査
	7 月 2 日(水)	晴れ	アカショウビン調査(2 回目)
7 月 3 日(木)	雨	アカショウビン調査(2 回目)	
7 月 4 日(金)	晴れ時々くもり	アカショウビン調査(2 回目)	

## 2.3 調査方法

調査は、ラインセンサス法及び任意踏査により実施した。本調査の手法を表 2.2 に示す。

表 2.2 調査実施状況

調査方法	具体的内容	調査のイメージ
ラインセンサス法	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査地域内に設定した経路をゆっくりとした速度(1.5km/h～2.5km/h程度)で歩行し、目視もしくは双眼鏡により出現する鳥類を目撃又は鳴き声により確認した。</li> <li>観察幅は、片側 25m ずつ(計 50m)を基本としたが、見通しの良いところでは、片側 50m ずつ(計 100m)とした。</li> <li>調査経路の距離は、1 地点あたり 500m～1km 程度とした。</li> <li>アカショウビンを確認した場合は、確認内容(目撃、囀り等)、個体数等を記録した。</li> </ul>	 <p>(平成 20 年 7 月 4 日撮影)</p>
任意踏査	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラインセンサス法で網羅できない箇所を任意に移動し、双眼鏡を用いて、重要な種の確認に努めた。</li> <li>重要な種を確認した場合は、種名、個体数、確認時の行動や状況、確認環境等を現地調査票に詳細に記録した。</li> </ul>	

### 3. 調査結果

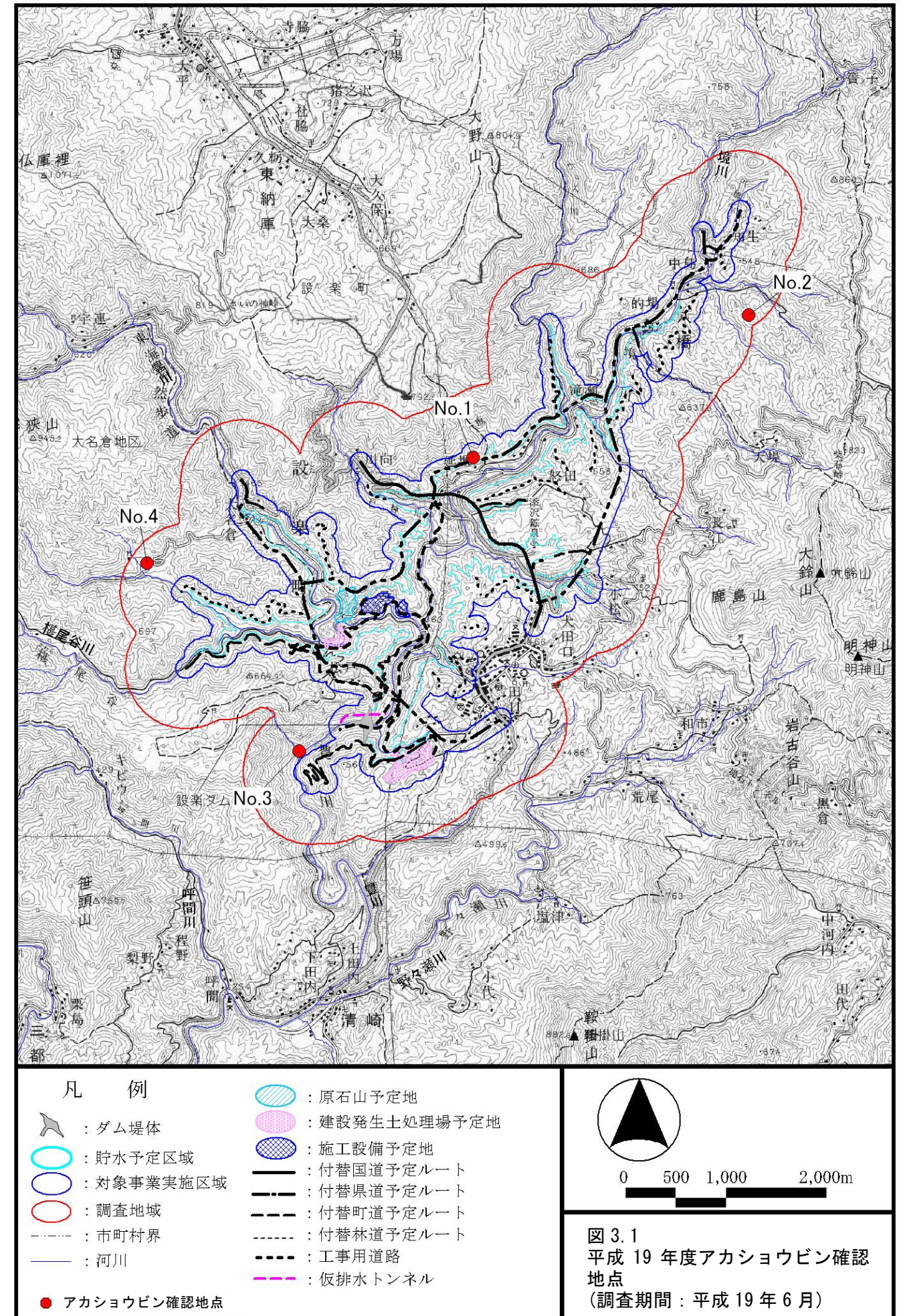
#### 3.1 確認状況

##### (1) 平成19年度の確認状況について

平成19年度のアカショウビンの確認状況を表3.1に、確認位置を図3.1に示す。  
 本調査の結果、アカショウビンは6月上旬の1回目の調査で、2地点で確認され、6月下旬の2回目の調査では確認されなかった。また、その他の調査の際に2地点で確認された。  
 確認された地点の環境は、沢沿いのスギ・ヒノキ植林（壮齢林）であった。

表3.1 アカショウビンの確認状況（平成19年度）

No.	確認日	確認内容	確認地点数	確認環境
1	平成19年6月5日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林（壮齢林）
2	平成19年6月7日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林（壮齢林）
3	平成19年6月14日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林（壮齢林）
4	平成19年6月15日	飛翔、さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林（壮齢林）



(2) 平成20年度の確認状況について

平成20年度のアカショウビンの確認状況を表3.2に、確認地点を図3.2に示す。

本調査の結果、アカショウビンは6月上旬の1回目の調査で6地点、7月上旬の2回目の調査において4地点で確認された。また、6月中旬に実施したその他の調査の際にも八橋の1地点で確認された。今年度の調査では、計11地点でアカショウビンが確認された。

確認された地点の環境は、主にスギ・ヒノキ植林であった。

表3.2 アカショウビンの確認状況（平成20年度）

No.	確認年月日	確認内容	確認地点数	確認環境
1	平成20年6月4日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林
2	平成20年6月4日	さえぎり	1	境川沿いの集落周辺
3	平成20年6月5日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林
4	平成20年6月6日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林
5	平成20年6月6日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林、河畔は落葉広葉樹林
6	平成20年6月6日	さえぎり(2羽による鳴き交わり)	2	スギ・ヒノキ植林、河畔は落葉広葉樹林
7	平成20年6月25日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林
8	平成20年7月2日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林
9	平成20年7月2日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林、河畔は落葉広葉樹林
10	平成20年7月2日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林、河畔は落葉広葉樹林
11	平成20年7月4日	さえぎり	1	スギ・ヒノキ植林

(3) 調査地域への飛来数の年変動について

既往の鳥類調査のうち、アカショウビンの繁殖期である5月～7月の調査は、昭和60年度、平成6年度、平成7年度、平成9年度、平成13年度～16年度、19年度及び20年度の10ヵ年で実施されている。

アカショウビンの確認状況の経年変化を表3.3に示す。

アカショウビンの確認は、平成13年度、平成16年度、平成19年度及び平成20年度の4ヵ年であった。また、平成19年度は、平成16年度に比べ、確認例が減少していたことから、調査地域に飛来するアカショウビンの個体数には、年変動している可能性が考えられた。

これらのことを踏まえ、平成19年度と同程度の調査努力量で実施した平成20年度の調査では、アカショウビンが11地点で確認された。このことから、調査地域へ飛来するアカショウビンの個体数には年変動があるものと考えられる。

表3.3 アカショウビンの経年的な確認状況

調査年	S60	H6	H7	H9	H13	H14	H15	H16	H19	H20
確認地点数	0	0	0	0	3	0	0	17	4	11

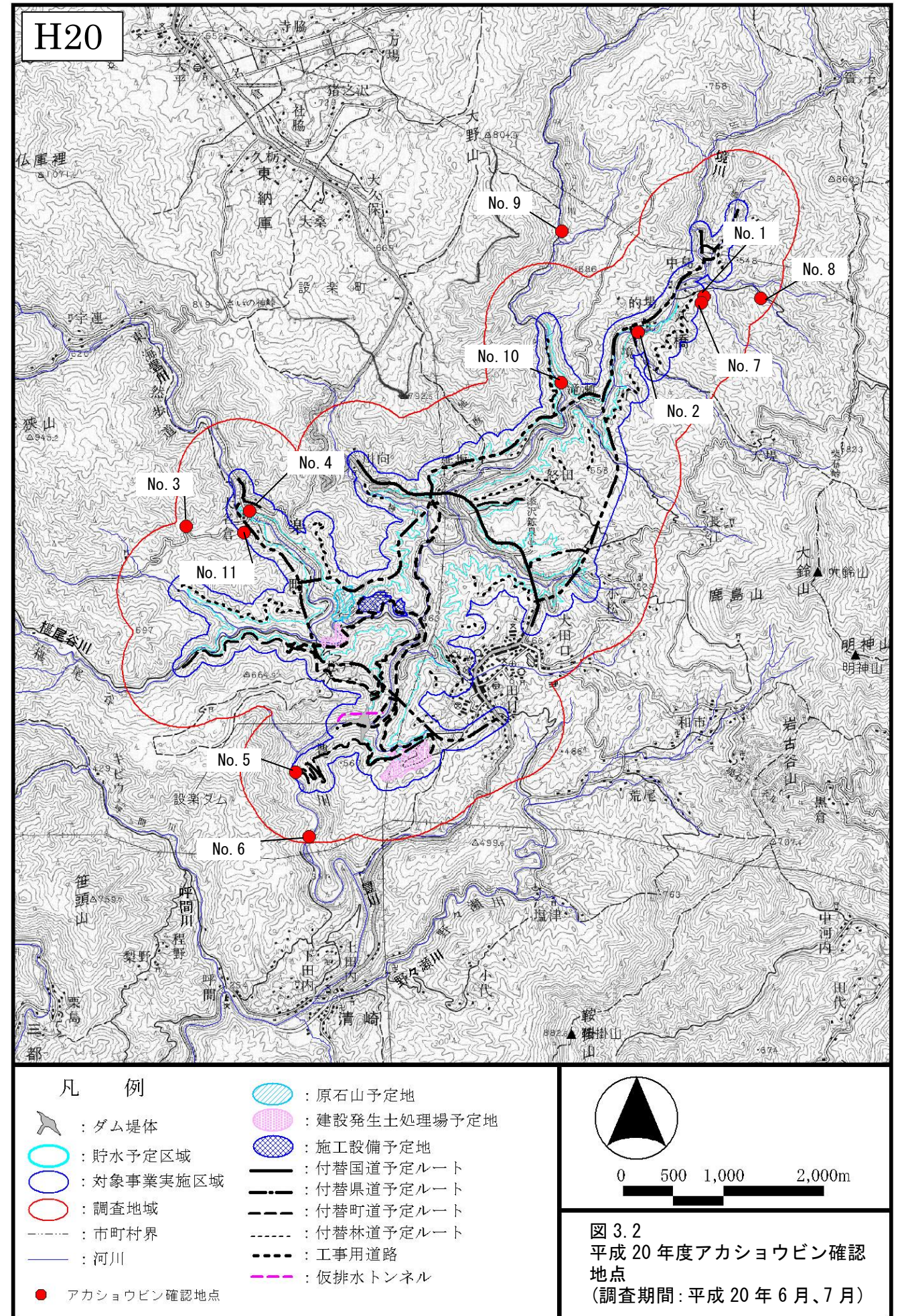


図3.2 平成20年度アカショウビン確認地点 (調査期間:平成20年6月、7月)

### 3.2 営巣地の確認状況

アカショウビンの営巣地は、樹洞や崖の洞穴を使う洞穴借用型で、朽ち木や土壁等に自分で掘ることもある<sup>1)</sup>。また、集落周辺で繁殖することもあり、民家の軒下のスズメバチの古巣<sup>2)</sup>、茅葺き屋根<sup>3)</sup>に営巣した事例が知られている。既往調査においても、調査地域外ではあるが、軒先のスズメバチの巣に営巣した事例が確認されている。

これらの点に留意して、アカショウビンの営巣状況を確認するため、本種が確認された地点の周辺及び調査地域内の集落周辺において任意踏査を行った。

その結果、2地点においてアカショウビンの営巣木、または古巣である可能性が考えられる樹洞が確認された(写真1、2、図3.3)。確認された樹洞付近において、2時間程度の定点観察を行ったがアカショウビンの営巣は確認されなかった。

また、集落周辺では、民家の軒先の数ヶ所でスズメバチの古巣は確認されたが、アカショウビンの営巣は確認されなかった。



写真1 アカショウビンが営巣する可能性のある樹洞 No.1  
(撮影日：平成20年7月3日)

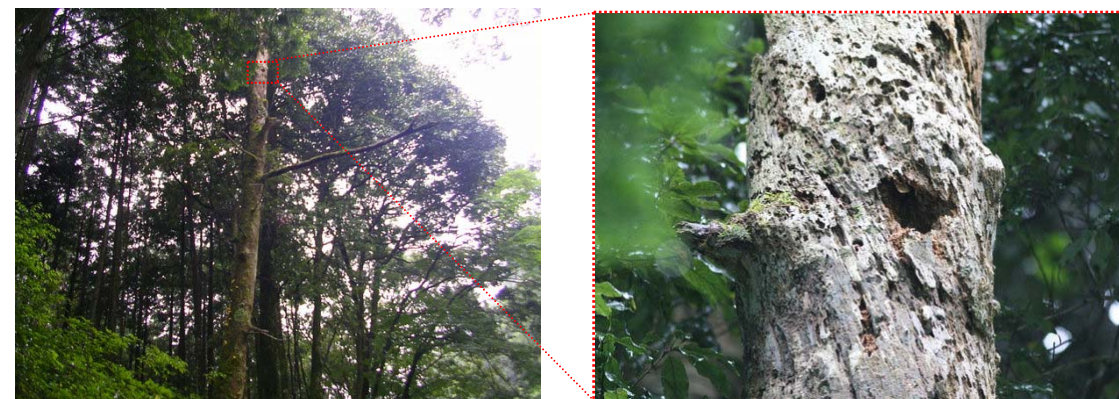
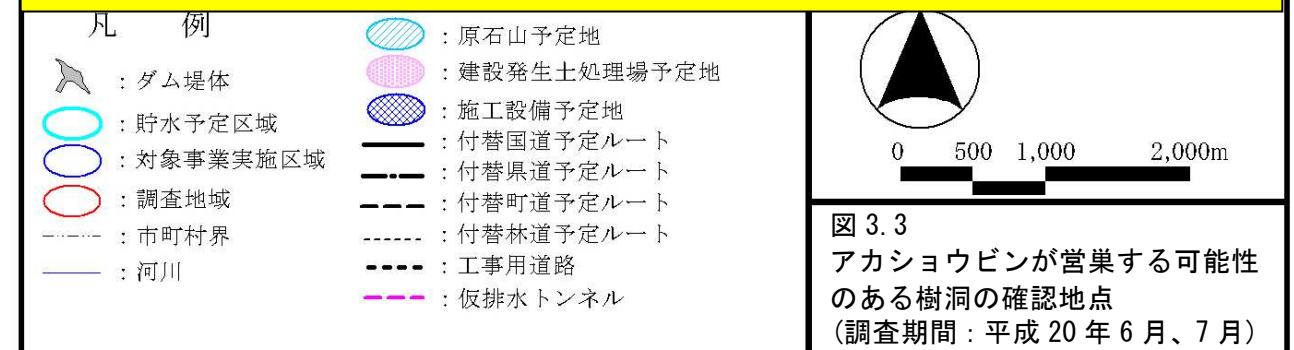


写真2 アカショウビンが営巣する可能性のある樹洞 No.2  
(撮影日：平成20年7月3日)

貴重種保護の観点から、位置情報については、非公開とします。





## 4. まとめ

### 4.1 調査の概要

本調査は、アカショウビンの生息状況等を把握することを目的として実施した。

調査の結果、アカショウビンは、平成19年度に4地点、平成20年度に11地点で確認された。平成19年度調査と比べ、平成20年度調査では確認数が増加していた。この要因として、アカショウビンの調査地域への飛来数に年変動があるものと考えられる。

また、集落周辺等における営巣は確認されなかった。

### 4.2 今後のモニタリング調査について

- ・アカショウビンに関しては、平成20年度までのモニタリング調査により、工事実施前の生息状況については概ね把握されたものと考えられる。今後は、試験湛水前、ダム供用後のモニタリング期間に調査を実施することが望ましいと考えられる。
- ・平成19年度及び20年度の調査では、集落周辺における営巣は確認されなかったが、今後、営巣する可能性もあるため、工事期間中は、環境巡視等により集落周辺における営巣状況を確認することが望ましいと考えられる。

### 【参考文献】

- 1) 中村登流・中村雅彦(1995) 原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉保育社.
- 2) 美馬秀夫・中村正博・中坂学夫(1988) アカショウビン *Halcyon coromanda* がスズメ蜂の古巣で繁殖. *Strix* 7:283-284.
- 3) 志水謙祐 編(2006) カワセミ BIRDER2 月号別冊 文一総合出版.